

## 【新年度のスタート】

71名の1年生を迎えてスタートした平成22年度。総児童数は419名となりました。男子216名、女子203名と、男女の人数がほぼ等しくなったことで、学級活動や学習活動の中でそれぞれのよさを発揮したり、足りないことを補い合ったりすることができることを期待しています。

入学したばかりの1年生は、スクールバスが学校に到着してから朝の会が始まるまでの間の着替えや学用品の準備などにまだ時間がかかりますが、それを見ている教員たちも「早く!」と急かすことのないようにし、少しの声かけと見守りで、一人ひとりの子どもたちがだんだんと自分の力でいろいろなことができるようにと応援しているところです。新しい集団の中での生活に慣れるまでにはまだしばらく時間がかかるでしょうが、周囲の優しい気持ちで子どもたちを包み込み、この学校は自分が安心できる場所であるという気持ちを持たせるようにしていきたいです。

兄弟学年の取り組みも少しずつ始まりました。先日は、身体計測で、5年生が1年生を、6年生が2年生を連れて学校内の計測場所を回るという様子が見られました。5年生は初めての活動であったこともあり、やや緊張気味でしたが、「1年生のためにがんばらなくちゃ」と思っているのだろうと思えるような雰囲気を感じられました。これからの兄弟学年の取り組みがとても楽しみです。

## 【農園の様子】

土に親しみ、作物を育てることで命を守ることを大変さと大切さを体験することができるのが農園です。今年も各学年で、様々な作物を育てるための準備が始まりました。3年生は、きゅうり、かぼちゃ、枝豆の種を発芽用のポットに、そしてはつか大根の種を農園に蒔きました。種を蒔いて1週間後に農園に行ってみると、数ミリの芽がたくさん出ていることが確認できました。子どもたちはその小さな芽を見てどんなことを感じたでしょう。これからの成長の様子は目で見て分かるものであり、世話をする子どもたちも、日々の変化を見ながら過ごすことができます。農園で生まれ育つ小さな命たちは、子どもたちの心を成長させてくれます。

## 【思い通りにならないことがある】

自分の思い通りにならないことってどんなときでも多少はあります。友だちと遊んでいても、自分の好きなことやしたいと思うことがなかなかできない。勉強中に、自分をもっと続けたい活動があっても、他のことをしなければならない。そのようなときの子どもたちの姿からは、自分で気持ちの切り替えができる子となかなかそれができない子がいることが分かります。

また、友だちとの関わりの中での不満が、ときに乱暴な言動(暴力)に結びついてしまうこともあります。乱暴な言動というのは、たたく、けるという肉体的苦痛を与えるものや、相手に精神的に大きなダメージを与える言葉かけ(ばか、うざい、きもい、消えろ、死ね・・・など)です。

先日の朝会で、学校は、思い通りにならないことがあったときにどのようにしたらよいのかを考える所なのであるという話をしました。そして、乱暴な言動によらない解決の方法として二つの方法があることを話しました。

一つは、自分が相手の気持ちを理解してあげようと相手に歩み寄ること。もう一つは、相手が自分に歩み寄ってきてくれることです。子どもにとって難しいことであることは分かりますが、なんとか上手に自分の力で感情をコントロールできるようになり、その上で、自分の気持ちをしっかりと伝えて行くことができる子どもたちになってほしいです。

## 【遊びのルール・・・ドッジボールを見ていて】

ボールを持ってラインをはみ出し、相手コートに入ったり、自分のコートから出てしまったりした場合は、相手側にそのボールを渡さなければならないのがドッジボールのルールです。子どもたちがドッジボールをしている様子を見てみると、そのルールを守りながら遊んでいる子どもたちには比較的笑顔が多く、そうでない場合は遊んでいる子どもたちの中に、ボールを恐がっているような雰囲気を感じます。これは一つの例ですが、ルールというのは、楽しく遊ぶため、安全に遊ぶために作られたものであり、それを守ることが求められます。したがって、遊びにおいてルールを守らない、守れない子と遊んでいても楽しくないと思ったり、一緒に遊びたくないと思うようになってきたりするのはむしろ当然のことと言えます。少し前になりますが、このドッジボールの遊び方について、子どもたちに話したことがありましたが、なかなか改善されないことを心配しています。中には、「そんなルールを守っていたら楽しくない」と言う子もいました。他の子のことを考えることができない自分勝手な理屈です。5m離れた所から投げられたボールなら「よし捕ってみよう」と思うかもしれませんが、同じ勢いでさらに近い所から投げられたボールは、ゲームの道具ではなく凶器にさえなってしまうことを、ルールを守れない子、守ろうとしない子にはしっかりと伝え、理解させなければなりません。